

令和2年度 学校評価アンケート結果分析

1 保護者、学校評議員対象

- 33項目のすべての質問で、A「よくあてはまる」、B「ややあてはまる」の肯定的な回答の割合が70%以上であった。
- A「よくあてはまる」、B「ややあてはまる」の肯定的な回答の割合が70%台に留まっている項目はE「わからない」の回答が多い。
- E「わからない」という回答の割合が20%以上の項目は2項目で、「学校の先生は働き方改革に努めている」、「学校の先生は、社会常識を身につけており、人間としても信頼できる」であった。
- 学校方針、教員の愛情や熱意、児童生徒の生き生きとした活動等、学校教育の重要な項目において、肯定的な高い評価を得られている。

2 生徒

- 概ね良好な結果となっている。
- B「そう思わない」という回答もあるので、その項目について改善を図る必要がある。
- 「いじめや差別を許さず、厳しく対応している」という質問では、C「わからない」という回答が半数近くあり、「わからない」の理由についてさらに分析する必要がある。
- 「学校の授業は、わかりやすく楽しい」の質問で、3名が「そう思わない」と回答しており、改善をする必要がある。

3 考察と課題

- 保護者・学校評議員の回収率は83%で、昨年度より11%増加した。
- 集計の母集団が34名で、3名で10%弱の割合を占めるため、割合だけではなく、C、Dの数値にも目を向け改善を図る必要がある。